2024 年 9 月 18 日に市立ひらかた病院 2 階講堂にて、枚方市地域包括支援センター サール・ナート様と松徳会様からの依頼を受け、講演会を開催しました。

地域包括支援センターとは、地域に住む高齢者の生活をサポートするための相談・支援窓口です。地域包括支援センターには社会福祉士、保健師、主任ケアマネジャーの 3 種類の専門家が配置されており、これらのスタッフと医療従事者がチームを組んで、高齢者の生活支援を実現し、必要な医療や介護を提供します。（枚方市 H.P. https://www.city.hirakata.osaka.jp/kourei/0000002638.html）

講演会には、地域包括支援センターを通じて“在宅医療”に関わるスタッフさん、薬剤師さん、看護師さん、そして当院で糖尿病治療に関わる看護師さんなど合わせて 40 名程のご参加を頂きました。近年、目覚ましく進化する糖尿病治療の中でも特に、**注射製剤による糖尿病治療と“糖尿病療養指導”**について 90 分間お話しました。

皆様、メモを取りながら非常に熱心にお話を聞いて下さって、本当に嬉しかったです。糖尿病治療には「チーム医療」が必須であること、そしてチーム医療を支えて下さるメディカルスタッフの存在なくしては糖尿病チーム医療が成り立たないことを、本日の Take Home Message として皆様にお伝え致しました。

本日のまとめ

・注射製剤による治療は患者負担が大きい, 常に常に患者さんの負担を最小限にする配慮を.
・インスリン注射手技を指導する際には必ず, インスリン注射部位ローテーションも指導 (確認) する.
・常に, インスリン注射手技の不確実性を疑う (認知機能低下の影響, インスリン施注代行者の都合)
・多職種が, それぞれの専門分野から糖尿病治療にアプローチする重要性を認識する.
・専門的・先進的糖尿病治療 (糖尿病合併妊娠, インスリンポンプ治療) でも“糖尿病療養指導”は不可欠.

・最新のインクレチン関連薬について (総論, 臨床データと症例提示)
・自己血糖測定 (SMBG) の血糖管理システム～MEQNET SMBG viewer～について

糖尿病療養指導 最大のツボ

糖尿病に関わるメディカルスタッフの存在なくしては「糖尿病チーム医療」は成り立ちません

自分達の仕事に誇りと自信を持って“糖尿病療養指導”を楽しんでください!!

講演会をご準備下さった枚方市地域包括支援センター並びに当院連携室スタッフの皆様に厚く御礼申し上げます。

講演会終了後にパチリ。